



海を渡って遠くに行けば、 より多くの知恵を得、 自分や自分の国をより豊かにできる。

ハンガリー共和国 特命全権大使

ダブローナキ・ジュラ氏
Gyula Dabronaki

1957年ブダペスト(ハンガリー)生まれ。81年モスクワ国際関係大学にて修士号取得(日本外交政策)。81年ハンガリー外務省入省後、アジア太平洋局担当。86年駐日ハンガリー共和国大使館二等書記官。90年ハンガリー外務省日本担当課課長。94年駐日ハンガリー共和国大使館一等書記官、96年より参事官。2000年ハンガリー外務省通信情報技術局局長。03年より駐日ハンガリー共和国特命全権大使。

池崎 ハンガリーの小学校には日本語のクラスがあり、小学生向けの日本語教育が行われていると伺っております。日本語サミット(ジャパンリターンプログラムが毎夏行なっている日本語イベント)には、今年もハンガリー代表が選ばれ、とても嬉しく思っております。

ジュラ ありがとうございます。ハンガリーの日本語教育については、日本人教師とハンガリー人の先生と一緒に日本語を教えますが、ハンガリー人の方が多いですね。しかし文法などでは、ハンガリー語を通じて教えることは無理があると思いますので、やはり日本語教育においては日本人による日本語知識がとても必要です。

池崎 やはり日本人で日本語を教えられる教師が本当に必要という事ですね。それでは、大使の個人的なお話を伺いますが、大使ご自身と日本語の出会いというのはいつ頃で、どういうきっかけでいらっしゃいますか？

ジュラ 私は旧ソ連の大学で日本語を勉強しました。大学ではノーマルな日本語を教えられました。今まで外務省と大使館の仕事で何度も日本勤務になり、そのたびに日本語を勉強しました。

日本でのビジネスには日本語が必要

池崎 日本にいらして、お仕事をなさりながら日本語を身につけられたのですね。日本語の難しさというのはどういうところだと思われますか？

ジュラ 日本人もよく日本語の難しさを感じているのではないのでしょうか？例えば、女子高生の日本語を両親がわからないとか。また、地方によ

って方言があり、質問は標準語にも関わらず、返事は方言で返ってくるなどの場合もですね。私は言葉コミュニケーションについて困っていませんが、同僚が悩んでいますね。欧州では、日本では英語が出来ればいろいろな情報が入るといわれていましたが、日本に来てから、それが誤った認識だという事を私は知りました。会社のリーダーなども含めて、多くの方は実際英語を話すことができません。ですから、私達が日本で仕事をするには、やはりある程度日本語の勉強が必要だと思います。

池崎 やはり、言葉の面において、日本はまだまだ遅れていて、国際化されていないということでしょうか。

ジュラ はい、そうですね。わたしのように日本に関して興味と関心を持っている人は世界中にいます。ですが、科学技術などについて日本の実績の情報がほとんど日本語だけです。世界に発信する必要があるかどうかは別として、それらの情報を知りたいと思う場合にはやはり日本語が必要となってくるわけです。

日本のテレビなど、マスコミの責任は大きい

池崎 大使はどんな時に、日本語ができてよかったと思われましたか？

ジュラ 日本で自分が体調不良で病院に行くと、お医者さんと直接お話ができます。また、私の娘が入院した時に日本語でお医者さんと話すことができました。また、私は日本語ができる大使の会「平成会」に入っていますが、その平成会を通じ



て日本の大臣や政治家の方々との直接交流ができるのは、よかったです。

池崎 そうですか。その意味でも平成会の役割は大きいですね。それは日本語ができる大使だからおできになることですね。実際日本語を通して、日本の子供たちや、日本人をどういう風にご覧になっていますか？

ジュラ 日本人は世界の他の国をよく知らないという風に感じますね。それはある程度日本のテレビなどのマスコミにも責任があると思います。大きな事件が起きればすぐテレビで放送されますが、世界のいろいろな国の一般の状況や情報番組などがあまりにも少ないですね。でも、くだらないお笑い番組が多いです。

池崎 大使のおっしゃる通りで、私も外国から日本へ帰ってくるといつも感じます。

ジュラ また、大きな問題は「友達関係」ですね。日本ではよく「友達です」「仲良しです」と言っていますが、その「友達」と一緒にいるのに、お互いに何も話さずに携帯電話ばかりいじくっている。私達の認識では、そのような関係は本当に薄くて、友達とは言えないと思います。友達というのは自分達の喜びと悲しみを分かち合える、困っているときには一番相談になるという仲のことで。日本の夫婦は街では手も繋がらないで並行に歩き、何も話さないみたいですね。私の国では夫婦は外でも手を繋いで歩きます。また家に帰ると子供とよく話します。学校の様子や子供の友達関係など、細かいところまで毎日話すことが当たり前です。そして、子供が困っているときには、親がすぐ解決することができます。しかし日本では、親と子供が家ではあまり会話しません。子供が何を考えているのかもわからずに、何もないと思った時に突然子供が自殺したりします。それは何もなかったわけではない。小さな悩みが重ねて大き

くなって、最後に死ぬことになるのです。もし日々子供と会話をして、何を悩んでいるのか理解していれば、何かあっても親が立ち上がって適切に対応すれば、問題にはならないはずですよ。

日本はもっと“個性”を大事にすべき

池崎 大使もよくお子さまと話されて、お子さまも今の大使の仕事の難しさを理解するようになられたのでしょうか。

ジュラ 私の娘には、小さい頃からその時の年齢に合うような深さまで、私の仕事について話しています。ですからある程度私の仕事について理解をしています。

池崎 そうですか。親と子供の会話といますか、言葉は大きなしつけになるわけですね。

ジュラ そうですね。また、私の個人の意見ですけど、日本の江戸時代からの伝統ですけど、日本の一番の問題は「出る杭が打たれる」ことだと思います。日本が追いかけていたとき、つまり経済的に発展していたときまではよかったです。今はデメリットの方が大きくなっています。今は新しい技術やアイデアを生み出さないといけない時期です。日本が遅れないように発展するにはやはり個性を大事にすべきです。

池崎 大使のお話は日本のいろいろな点を見ていらっしゃるって、本当にいいところも悪いところもわかっているって感じますね。

ジュラ どの国でも、いいところも悪いところもありますから。自分の国をよくするためにはいろいろな努力が必要ですが、海を渡るべきです。外国のことを勉強したいのなら海を渡って遠くのところに行けば、より多くの知恵を得ることができます。自分や自分の国をより豊かにすることができます。

池崎 素晴らしいお話を本当にありがとうございました。

ジュラ こちらこそ、ありがとうございました。

